

自己評価報告書

令和6年度 中央区立月島第一幼稚園 自己評価報告書																																													
学校（園）名：中央区立月島第一幼稚園 所在地：中央区月島4-15-1																																													
校（園）長名：嶺村 法子																																													
児童（生徒）数 69 学級数 4 教員数 6 職員数 12																																													
1 重点目標の達成状況及び取組状況 ○令和6年度現在、在籍数69名 回答数68 回収率99%であった。 ○評価の尺度は1：十分に達成している、2：達成している、3：改善を要する、4：緊急に改善を要する、5：わからない、である。 ○今年度も google form で実施した。その内、56名が記名、12名が無記名での回答となった。 重点目標1 自分で考え、進んで行動できるようにする。 ◇保護者評価 重点目標1 自分で考え、進んで行動できるようにする...を要する・緊急に改善を要する・わからない <table border="1"> <caption>保護者評価結果</caption> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>望ましい生活リズムが身に付き、園生活に必要なことを自分から行っている。</td> <td>41</td> <td>24</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>運動遊びに自分から取り組み、繰り返し楽しむ中で、体力がついてきている。</td> <td>41</td> <td>26</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教師の話の聞いたり、友達の様子を見たりして、場に応じた行動をしようとしている。</td> <td>38</td> <td>28</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> ◆教員評価 A 十分に達成している B 達成している C 改善...善が必要 【評価指標】（成果及び取組の状況） <table border="1"> <caption>教員評価結果</caption> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>望ましい生活リズムが身に付き、園生活に必要なことを自分から行っている。</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>運動遊びに自分から取り組み、繰り返し楽しむ中で、体力がついてきている。</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教師の話の聞いたり、友達の様子を見たりして、場に応じた行動をしようとしている。</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> < 達成状況・取組状況 > ○評価項目①「基本的な生活習慣が身に付くよう指導すること」について - 保護者評価は、1：十分に達成している、2：達成している を合わせて96%、3：改善を要する が3名であった。我が子の姿から、3と答えていると思われる保護者がいることから、個人面談や降園時などに、より丁寧に園での取り組みの様子を伝え、課題と思われることを解決するための具体的な方策を保護者と共有し、継続的に変容を共有しながら、保護者が我が子の成長を感じられるようにする必要がある。 - 教員の評価では、年齢や発達に応じた日々の指導の成果が見られていると評価している。 ○評価項目②「運動遊びを通して体力の向上を図れるよう指導すること」について - 保護者評価は、1：十分に達成している、2：達成している を合わせて99%、3：改善を要する が1名であった。校園内の環境を活用し、可動式遊具を使った運動遊びや、鬼遊びやリレー、ドッジボールなど学級のみんなでする遊び、縄跳びや一輪車など個人で取り組む遊びなど、発達や実態に応じた様々な運動遊びを取り入れ、子どもたちの様子を園務支援システム「ルクミー」を使い、写真を取り入れながら発信した。また、保護者会や学級懇談会後に子どもたちの普段の様子を見てもらったことや、専門家による運動遊び教室を参観する機会を設けたことが、保護者の運動遊びに対する関心を高め、高い評価につながったと思われる。 - 教員の評価は2が最も多く、3の評価もある。体を動かして遊ぶことに抵抗を感じる幼児や興味を示さない幼児の意欲を引き出す援助が十分にできなかったことや、小学校が体育		評価項目	1	2	3	4	5	望ましい生活リズムが身に付き、園生活に必要なことを自分から行っている。	41	24	3	1	0	運動遊びに自分から取り組み、繰り返し楽しむ中で、体力がついてきている。	41	26	1	0	0	教師の話の聞いたり、友達の様子を見たりして、場に応じた行動をしようとしている。	38	28	2	0	0	評価項目	A	B	C	D	望ましい生活リズムが身に付き、園生活に必要なことを自分から行っている。	2	3	0	0	運動遊びに自分から取り組み、繰り返し楽しむ中で、体力がついてきている。	1	3	1	0	教師の話の聞いたり、友達の様子を見たりして、場に応じた行動をしようとしている。	2	3	0	0
評価項目	1	2	3	4	5																																								
望ましい生活リズムが身に付き、園生活に必要なことを自分から行っている。	41	24	3	1	0																																								
運動遊びに自分から取り組み、繰り返し楽しむ中で、体力がついてきている。	41	26	1	0	0																																								
教師の話の聞いたり、友達の様子を見たりして、場に応じた行動をしようとしている。	38	28	2	0	0																																								
評価項目	A	B	C	D																																									
望ましい生活リズムが身に付き、園生活に必要なことを自分から行っている。	2	3	0	0																																									
運動遊びに自分から取り組み、繰り返し楽しむ中で、体力がついてきている。	1	3	1	0																																									
教師の話の聞いたり、友達の様子を見たりして、場に応じた行動をしようとしている。	2	3	0	0																																									

の授業をしていない時間を有効的に活用することができなかったことから、全園児が主体的に運動遊びに取り組むには至らなかったという反省があり、意図的、計画的に運動遊びに取り組んできた成果は出ているが、今後に向けて改善の余地があると評価している。

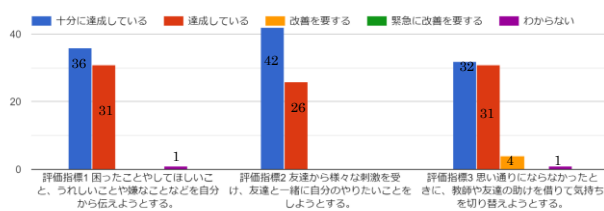
○評価項目③「その場にふさわしい行動ができるよう援助すること」について

- ・保護者評価は、1：十分に達成している、2：達成している 合わせて97%、3：改善を要する が2名であった。評価項目①と同様に、我が子の姿から、3と答えている保護者がいると思われ、話を聞く態度に課題を感じているのではないかと考える。場に応じた行動ができるようになるには、話をよく聞くことが基本となるため、幼児が話を聞く姿勢になってから話し始め、話を最後まで聞いてから行動に移すことを繰り返し指導していく。
- ・教員の評価としては、年長児の電車遠足、小学校、保育園、こども園との交流活動、園内での異年齢交流などを実施したことで、場や状況に応じて、自分で判断して行動する姿や、年下の友達に優しく接する姿につながったと感じている。

重点目標2 多様な感情体験を通して、人と関わる力を育む。

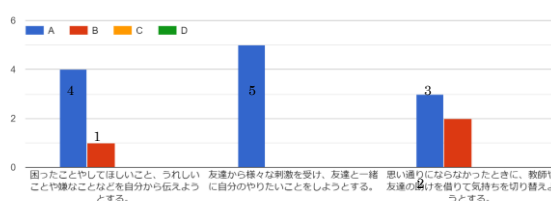
◇保護者評価

重点目標2 多様な感情体験を通して、人と関わる力を育む。 評価項目1
教師に受け止めてもらえたうれしさを感じられるよう...する・緊急に改善を要する・わからない



◆教員評価

【評価指標】（成果及び取組の状況）



<達成状況・取組状況>

○評価項目①「一人一人の思いに共感しながら丁寧にやりとりをすること」について

- ・保護者評価は、1：十分に達成している、2：達成している 合わせて99%、5：わからない が1名であった。教員の評価も保護者と同様であり、教師が一人一人の思いを受け止めることを大切にし、4月から信頼関係を築いてきたことで、安心して、教師や友達に自分の思いを伝える経験を積み重ねることができたと考える。保護者会や学級懇談会で、発達に応じた自分の気持ちの表現の仕方や伝え方について知らせ、子どもの思いを受け止め、思いに共感することの大切さを繰り返し伝えてきたことが、参観日や登降園時に、親子でスキンシップを図ったり、楽しそうに会話をしたりする姿につながった。

○評価項目②「友達と一緒に遊ぶうれしさを感じられるよう援助すること」について

- ・保護者、教員ともに評価が高く、保護者評価では、1：十分に達成している、2：達成している 合わせて100%、教員も全員1の評価であり、重点目標の評価項目の中で一番高かった。本園の園内研究の取り組みや、日頃の子どもたちの様子が保護者に伝わった成果と考えられる。降園時やルクミー、HOIKU トークデーなどで、子どもたちの興味・関心や楽しんでいることなどを写真や動画を使って、丁寧に伝えてきたことで、保護者への理解が得られたと考える。

○評価項目③「葛藤する気持ちを調整できるように援助すること」について

- ・保護者評価は、1：十分に達成している、2：達成している 合わせて93%、3：改善

を要する が4名、5：わからない が1名であった。保護者から一定の評価はあったが、教員の評価との間にギャップがあることから、少しずつ気持ちを切り替えられるようになってきているという心の成長を保護者一人一人に丁寧に伝えることが十分にできなかったと感じる。心の成長は目で見て捉えにくいので、具体的な場面を挙げ、葛藤を乗り越えようとする姿から変容を捉え、継続的に保護者に伝えるなど、改善を図る必要がある。

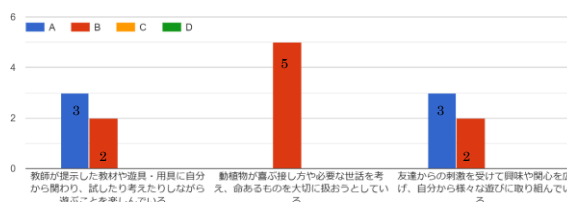
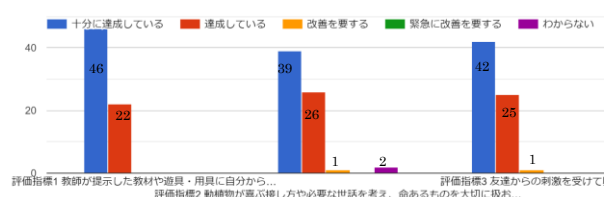
重点目標3 好奇心や探究心を引き出し、思考力の芽生えを育む。

◇保護者評価

◆教員評価

重点目標3 好奇心や探究心を引き出し、思考力の...を要する・緊急に改善を要する・わからない

【評価指標】（成果及び取組の状況）



<達成状況・取組状況>

○評価項目①「一人一人がやりたいことを実現できるよう援助すること」について

- ・保護者評価が1：十分に達成している、2：達成している 合わせて100%であり、重点目標2の評価指目②と同様に最も高い評価を得た。教員の評価も高く、これまでの園内研究や研修会での学びを活かし、活動の精選、製作コーナーや園庭遊具の環境の見直しを図るとともに、幼児が始めた「名の無い遊び」を一緒に楽しむ姿勢で、一人一人の思いに共感しながら発達に必要な援助をしてきたことや、ルクミーなどで取り組みの過程や育てている力を知らせてきたことの成果であると考えられる。

○評価項目②「動植物の命を感じながら適切な世話ができるように援助すること」について

- ・保護者評価が1：十分に達成している、2：達成している 合わせて96%、3：改善を要する が1名、5：わからない が2名であった。収穫した野菜を調理、会食する機会を計画的に設けたり、身近な虫や栽培物などに興味をもてるように環境を工夫したりしてきた。また、保護者にクワガタや蚕の飼育の協力を募ったり、栽培物の水やりや芋づるのリース作りなどの親子活動を取り入れたりして、親子で同じ体験をすることができたことで、保護者の理解を得られ、昨年度よりも高い評価になったと考える。

○評価項目③「集団の中で切磋琢磨できるように援助すること」について

- ・保護者評価では、1：十分に達成している、2：達成している 合わせて99%、3：改善を要する が1名であった。HOIKU トークデーや行事の特集号などので、全学年の取り組みの様子を伝えてきたことや、降園時や「ルクミー」で、学級の成長や、年齢や発達に応じた友達とのかかわり方やその中で見られる成長について、その都度発信し続けたことで、保護者に幼児同士が互いに刺激し合う様子が伝わり、成長を感じてもらえた成果と考える。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

<達成状況・取組状況>

- ・設問1～15については、90%以上の人が 1：十分に達成している、2：達成してい

ると回答しているが、設問16の「保護者は幼稚園の教育活動に積極的に関わっている」は、1と2を合わせて、84.8%であり、評価が低かった。「教育活動に積極的にかわる」ことを、PTA活動や行事の手伝いなどと捉えている傾向があるように感じられる。今後は、保護者会や学級懇談会、幼稚園公開、行事への参加も、教育活動への参加、協力の1つであることを伝え、教育活動に参加しているという意識を高めていきたい。

3 今後の改善方策

<重点目標Ⅰに対して>

- ・ 基本的生活習慣については、引き続き、幼児が園生活に見通しをもち、自分から行動できるようになる生活の流れや、発達に応じた活動の提案、表示の仕方を意識して行い、基本的生活習慣の定着を図る。また、外国籍の幼児や特別に配慮が必要な幼児など、一人一人に応じた丁寧な指導、援助の方法を探り、柔軟に対応することを意識する。
- ・ 運動遊びについては、全教員で教材研究を行い、教員の指導力を高めるとともに、運動遊びに対する抵抗を減らし、幼児一人一人の意欲を高められるように、簡単な運動的な遊びや動きを生活の中にも取り入れ、幼児が様々な動きを経験できるようにする。また、小学校との連絡を密に図り、時間と場所を有効活用し、運動遊びに取り組める時間を確保する。

<重点目標Ⅱに対して>

- ・ 幼児期にいろいろな感情を体験し、幼児なりに気持ちを切り替え、乗り越えていくことは大切な経験であることを踏まえて、具体的な葛藤場面での様子を個人面談や降園時に一人一人に丁寧に伝え、成長を感じてもらえるようにする。

<重点目標Ⅲに対して>

- ・ 幼児の生き物への関心が継続する置き場所や掲示等の工夫をしたり、ガーデンや月一園などの自然環境の活用方法を見直したりし、学びにつながる環境作りを行い、幼児が生命の尊さに気づき、生き物を大切にする気持ちや態度が身に付くようにする。また、保護者も幼児と一緒に身近な自然に触れ、共感したり発見を楽しんだりできるように、全園児や保護者が見ることのできる玄関を活用するなどし、保護者への発信の仕方を工夫する。

<Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ共通>

- ・ 重点目標に沿った幼児の姿や育っている力、成長の様子を園だより、降園時の話、HOIKUトークデー、「ルクミー」等の様々な機会を活用して保護者に発信し、幼児の育ちを教職員と保護者が共有できるようにする。
- ・ 保護者が幼児の成長を感じられるように、写真の掲示や配信をしたり、作品の展示や親子活動など、保護者が幼稚園に足を運ぶ機会を作ったりして、分かりやすい情報発信の仕方や伝え方を工夫する。

<重点目標以外の評価に対して>

- ・ 来年度より預かり保育が18時までには延長されることから、より一層、保護者一人一人との丁寧なコミュニケーションを心掛け、信頼関係を基に質の高い幼稚園教育を目指す。
- ・ 未就園児の会や施設開放の実施、保幼小連携の推進など、引き続き地域の幼児教育のセンター的役割を果たすとともに、安心して預けられる園、相談しやすい園を目指し、子育てのパートナーとしての支援をより一層充実させる。